

令和4年度

広島市平和推進基本条例第8条に基づく
平和の推進に関する施策の実施状況報告

令和5年9月
広島市

世界平和の推進

項 目	説 明
<p>核兵器廃絶を目指した 取組の推進 (第7条第1号関係)</p>	<p>1 核兵器廃絶に向けた国内外の世論の醸成【市民局】(13,139千円)</p> <p>(1) ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展の開催(6,023千円)</p> <p>ア ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展 オーストラリア・キャンベラ市及びポーランド・グダンスク市において、長崎市と共同で原爆・平和展を開催した。</p> <p>[オーストラリア・キャンベラ市]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間：令和4年9月6日～令和4年11月30日 ・ 場 所：オーストラリア国立大学 ・ 入場者：約1,370人 <p>[ポーランド・グダンスク市]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間：令和4年10月14日～令和4年12月31日 ・ 場 所：グダンスク第二次世界大戦博物館 ・ 入場者：約8,400人 <p>イ NPT再検討会議に合わせた原爆展 アメリカ・ニューヨーク市において、長崎市と共同で開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間：令和4年8月5日～令和4年9月2日 ・ 場 所：国連本部1階ロビー ・ 共 催：日本原水爆被害者団体協議会 <p>(2) 国内原爆・平和展の開催(6,045千円) 北海道3都市において、原爆・平和展を開催した。</p> <p>[苫小牧市]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間：令和4年7月30日～令和4年8月21日 ・ 場 所：苫小牧市文化交流センター ・ 入場者：約3,700人 <p>[札幌市]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間：令和4年8月5日～令和4年8月15日 ・ 場 所：札幌駅前通地下歩行空間 北1条イベントスペース東 ・ 入場者：約26,500人 <p>[旭川市]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間：令和4年11月30日～令和4年12月11日 ・ 場 所：旭川市民ギャラリー ・ 入場者：約800人 <p>(3) 「広島・長崎講座」設置協力プログラム(48千円) 国内外の大学・大学院の講座で、広島及び長崎における被爆体験の持つ意味を学術的に考察・検証し、伝えるものを「広島・長崎講座」として認定するとともに、その普及を図った。令和4年度は、東京外国語大学及び奈良県立大学の講座を新たに認定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの認定大学数：国内53大学、国外24大学

項 目	説 明
	<p>(4) 国内ジャーナリスト研修 (751 千円) 国内の若手ジャーナリストを対象に、被爆の実相やヒロシマの心について総合的・体系的に学ぶ研修プログラムを開設し、研修の成果を報道や論説活動を通して広く国内外に発信してもらった。 ・ 期 間：令和4年7月28日～令和4年8月7日 ・ 参加者：10人</p> <p>(5) 原爆写真展用資料の普及・活用 (272 千円) 原爆展を開催する国内外の学校や各種平和団体、自治体等へ原爆写真ポスターや映像資料等の貸出・提供を行った。 〔貸出点数〕 ・ DVD等映像資料、ポスター等：168点</p> <p>2 平和首長会議の充実強化【市民局】(61,508 千円)</p> <p>(1) 平和首長会議の活動展開 (34,480 千円) 平和首長会議加盟都市の市民、NGO等と連携して世界恒久平和の実現を目指すため、平和首長会議行動計画に基づき、世界的な活動展開を図った。 〔実施内容〕 ・ 第10回NPT再検討会議への出席 ・ 核兵器禁止条約第1回締約国会議への出席 ・ 「核兵器禁止条約」の早期締結を求める署名活動の展開 ・ 平和首長会議加盟都市への被爆樹木の種・苗木の配付 ・ 子どもたちによる“平和なまち”絵画コンテストの実施 ・ 平和首長会議地域会議への出席 等</p> <p>(2) 第10回平和首長会議総会の開催 (23,641 千円) 核兵器のない平和な未来の創造に向け、加盟都市が今後の取組について議論するとともに、平和首長会議設立40周年を記念する行事を行った。 ・ 期 間：令和4年10月19日～令和4年10月20日 ・ 場 所：広島国際会議場ほか ・ 出席者：259人</p> <p>(3) 平和首長会議インターンシップ (1,414 千円) 平和首長会議の国内外の加盟都市から若手職員等をインターンとして広島に招へいし、平和首長会議の取組に対する理解を深めてもらうことにより、各加盟都市との連携強化を図った。 〔海外加盟都市〕 ・ 期 間：令和5年1月11日～令和5年1月25日 ・ 参加者：1人 〔国内加盟都市〕 ・ 期 間：令和5年2月1日～令和5年2月3日 ・ 参加者：17人</p>

項 目	説 明
	<p>(4) 世界平和都市連帯の呼びかけその他 (1,973 千円) 平和首長会議への加盟要請や加盟都市間の情報共有等の平和首長会議の運営を通して、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた国際世論の醸成を図った。 〔実施内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未加盟都市への加盟要請 ・ 加盟都市の活動情報の収集及びホームページやソーシャルメディアでの公表 ・ 加盟都市への広島市・長崎市の平和宣言文の送付 ・ 月刊メールマガジンの発行 等 <p>3 広島サミット県民会議への負担金【企画総務局】(253,100 千円) 県、市及び経済団体等で構成する広島サミット県民会議に対し、G7 広島サミット開催に向け、G7 首脳を始め世界中の人々に被爆の実相への理解を深め、「ヒロシマの心」を共有していただくための平和発信に関する取組等に要する経費を負担した。 〔実施内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本政府への被爆の実相に触れる機会の確保等の要望 ・ G7 広島サミットユースフォーラムの開催 ・ 海外メディアの招へい 等 <p>4 NPT再検討会議等国際会議の誘致【市民局】(124 千円) 国(外務省)に出向き、核軍縮・不拡散等に関する様々な国際会議の広島開催や、世界の政治指導者等の広島・長崎訪問の働き掛けを要請した。</p> <p>5 平和宣言の作成・発信【市民局】(1,831 千円) 平和宣言を作成し、広く国内外に発信した。 〔実施内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パネル(和文、英文)の作成、掲示 ・ 読み上げ動画(日本語、英語)の作成及びホームページでの発信 ・ 外国語8か国語(スペイン語、フランス語、ロシア語、中国語、アラビア語、ドイツ語、ハンガール語、ポルトガル語)への翻訳とホームページへの掲載 ・ 平和宣言文の作成、配付及び送付 (和文:1万2,000部、英文:7,000部、点字:200部等) <p>6 国際平和シンポジウムの開催【市民局】(48 千円) 市民の平和意識の高揚と国内外への平和メッセージの発信のため、長崎市で開催したシンポジウム「核兵器廃絶への道 ～世界を「終わり」にさせないために～」に参加するとともに、次年度の広島開催に向けた協議・調整を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 日:令和4年7月30日 ・ 場 所:長崎原爆資料館ホール

項 目	説 明
	<p>7 国連軍縮フェローズの受入れ【市民局】(13千円) 国連が軍縮専門家の育成を目的に主催する「国連軍縮フェローシップ・プログラム」を支援するため、各国外交官等の研修生(フェローズ)を受け入れ、被爆の実相等について理解を深めてもらう研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間：令和4年10月6日～令和4年10月7日 ・ 参加者：26人 <p>8 国連見学ツアーガイド等のヒロシマ研修【市民局】(4,220千円) 国連見学ツアーガイド等を広島に招へいし、被爆の実相を学んでもらう研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間：令和4年11月28日～令和4年12月2日 ・ 参加者：6人 <p>9 青少年国際平和未来会議の開催【教育委員会】(315千円) 広島市の姉妹・友好都市等世界の国々の青少年と本市の青少年が互いに世界平和について考え、意見を交換し合うことにより、友情と相互理解を深める会議をオンラインで開催した。(主催：モンテネルパ市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間：令和4年9月18日～令和4年10月16日(5回) ・ 参 加：46人(6か国7都市)

項 目	説 明
平和意識の醸成 (第7条第2号関係)	<ol style="list-style-type: none"> <li data-bbox="507 338 1426 555"> 1 中・高校生ピースクラブの開催【市民局】(810千円) 中・高校生を対象に、被爆の実相等を学ぶ講座やワークショップなどの学習の場を提供した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間：令和4年4月～令和5年3月(全12回) ・ 場 所：平和記念資料館など ・ 参 加：中学生・高校生(24人) <li data-bbox="507 595 1426 846"> 2 若者による平和の誓いの集いの開催【市民局】(189千円) 「ヒロシマの心」を次世代に継承するため、若者が主体となって企画・運営する平和の誓いの集い「Peace Night Hiroshima 2022 Pray for... ～遠い空に祈る～」を開催し、若者による平和宣言やビデオメッセージなどを発信した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 日：令和4年11月23日 ・ 場 所：平和記念公園 <li data-bbox="507 887 1426 1173"> 3 ヒロシマ・ピースフォーラムの開催【市民局】(153千円) 広島市立大学と連携し、18歳以上で市内に在住又は通勤・通学している人を対象とする連続講座を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間：〔前期〕令和4年5月～令和4年7月(土曜日、全3回) 〔後期〕令和4年10月～令和5年1月(土曜日、全3回) ・ 場 所：平和記念資料館など ・ 参 加：〔前期〕75人(うち19人は広島市立大学の学生) 〔後期〕107人(うち37人は広島市立大学の学生) <li data-bbox="507 1214 1426 1464"> 4 折り鶴に託された思いを昇華させるための取組の推進【市民局】 (1,578千円) 「原爆の子の像」に国内外から捧げられた折り鶴を、折り鶴再生製品の作成等に取り組む市民団体等に配付し昇華の取組を推進した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 配付団体：20団体 ・ 受入数量：約9.2トン ・ 使用量：約7.6トン <li data-bbox="507 1505 1426 1680"> 5 折り鶴再生紙によるピースメッセージ事業【市民局】(8,400千円) 平和記念資料館に修学旅行や平和学習で訪れた児童・生徒等に対し、平和への思いを見学後も思い出してもらえるよう折り鶴再生製品(付箋)を配付した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 入館者数(修学旅行等)：33万9,683人 <li data-bbox="507 1720 1426 1863"> 6 ジュニア向け平和学習用教材の作成【市民局】(1,519千円) 平和記念資料館見学の事前学習や、学校・家庭等での平和教育用に、小学校低学年向けの分かりやすい平和学習用教材を作成した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 作成部数：2万5,000部

項 目	説 明
	<p>7 平和文化月間におけるイベントの開催【市民局】(5,686千円) 平和文化月間の取組を広島広域都市圏内市町にも拡大し、様々な機関や団体との連携の下、多様なイベントを通じて「平和」への思いの共有につながる「文化」の振興を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時 期：令和4年11月 ・ 場 所：平和記念資料館、広島国際会議場など <p>[実施内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平和文化講演会 ・ 若い世代を中心としたステージ発表や展示発表 ・ 朗読を中心とした市民団体との共催事業など 計68事業 <p>8 平和文化普及促進事業【市民局】(1,550千円) 市民生活に平和文化が根付くよう、「平和文化の振興」に関する冊子の作成やワークショップなどを行った。</p> <p>[実施内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 被爆ピアノコンサート ・ 平和文化ワークショップ ・ 「平和文化の振興」に関する冊子の作成（日本語版：2万部） <p>9 平和教育ウェビナーの開催【市民局】(402千円) 平和首長会議の国内加盟都市等の青少年が、被爆・戦争体験と平和への願いを受け継いで行う取組を発表し合い、意見交換するオンラインセミナーを開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 日：令和5年2月4日 <p>10 こどもたちの平和文化活動支援事業【市民局】(1,205千円) 小・中学生による多様な平和文化活動を奨励するため、学校活動として実施する絵画、習字、作文など平和をテーマとした創作活動に参加した児童・生徒に対して記念品を贈呈した。</p> <p>11 スポーツを通じた平和意識の醸成【市民局】(100千円) 広島東洋カープやサンフレッチェ広島の試合の場を活用して、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けたメッセージを発信した。</p> <p>[ピースナイター]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 日：令和4年8月6日 ・ 場 所：マツダスタジアム <p>[ピースマッチ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 日：令和4年7月30日 ・ 場 所：エディオンスタジアム広島 <p>12 ひろしま子ども平和の集い【市民局】(923千円) 平和記念式典への参列等を目的に広島を訪れる青少年と広島の青少年が、被爆の実相を学ぶとともに、平和へのメッセージを発表するイベントを開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 日：令和4年8月6日 ・ 場 所：広島国際会議場 ・ 入場者：約350人

項 目	説 明
	<p>13 キョウチクトウ及び被爆アオギリ二世苗木育成【都市整備局】 (990千円) キョウチクトウ又は被爆アオギリ二世の苗木を修学旅行で広島を訪れた学校等に対し、希望に応じて配布した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キョウチクトウ：100本 ・ 被爆アオギリ二世：426本 <p>14 こどもたちの平和学習推進事業【教育委員会】 (17,568千円) 平成25年度より、児童生徒の発達段階に即した平和教育プログラムによる学習を推進するとともに、地域の被爆体験者を講師として招へいする「被爆体験を聴く会」や、平和記念日に焦点を当て、学校や地域の特色を生かして行う「平和を考える集い」等の開催など被爆体験を原点とする学習を進め、平和教育の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「平和教育プログラム」：全校実施（小・中・高） ・ 「被爆体験を聴く会」実施園・校数：19園（幼）、85校（小）、29校（中）、5校（高） ・ 「平和を考える集い」実施校数：141校（小）、64校（中）※広島中等教育学校を含む。 <p>15 中学生による「伝える HIROSHIMA プロジェクト」の実施【教育委員会】(353千円) 市内の中学校に通学する2・3年生の中からメッセージ発信者（メッセージャー）を30人程度選出し、本市が進める平和教育、英語教育の成果を生かし、中学生自らが考えた英語による平和のメッセージを伝える活動を通して、中学生の平和への意識の高揚や英語力の向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加人数：1,153人 ・ メッセージャー：40人 ・ 研修期間：令和4年5月21日～令和4年8月6日 <p>16 小・中・高校生によるヒロシマの継承と発信【教育委員会】 (1,113千円) 小学校6年生児童を対象とした平和についての意見を発表する「こどもピースサミット」や、アメリカ、オーストラリア、長崎県にある学校とのやり取り等による交流を行う「平和への誓いアクションプログラム」などを実施し、平和について発信する機会の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「こどもピースサミット」参加人数：1万1,012人 ・ 「平和への誓いアクションプログラム」実施校数：3校（小）、1校（中） <p>17 広島・長崎市児童生徒平和のつどい【教育委員会】(249千円) 長崎市と本市の児童生徒が平和について学び、オンライン交流会でそれぞれが学んだことを発表し、交流を深めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間：令和4年7月10日～令和4年9月3日 ・ 参 加：広島市児童生徒15人、長崎市児童生徒12人

項 目	説 明
<p>被爆体験の継承・伝承 その他 (第7条第3号及び第4号関係)</p>	<p>1 被爆建物等保存・継承の推進【市民局】(28,708千円)</p> <p>(1) 民有被爆建物等保存・継承事業補助(1,131千円) 被爆樹木の樹勢回復措置等に係る費用について補助を行った。なお、被爆建物に対する補助は、所有者の取下げにより、行わなかった。 ・ 被爆樹木：禿翁寺ほか2件</p> <p>(2) 被爆樹木モニタリング等事業(2,823千円) 樹木医による被爆樹木モニタリング調査を行うとともに、本市所有の被爆樹木について樹勢回復措置を行った。また、民有被爆樹木の所有者に対し診断結果の報告をするとともに助言を行った。 〔モニタリング調査〕 ・ 調査対象：63本 ・ 調査結果：経過観察 55本、樹勢回復措置等対応要 8本 〔樹勢回復措置〕 ・ 愛宕池 ムクノキほか13本</p> <p>(3) 被爆建物・被爆樹木めぐり(79千円) 被爆建物や被爆樹木を講師に解説してもらいながらめぐる見学ツアーを開催した。 〔被爆建物めぐり〕 ア 令和4年6月25日開催 ・ コース：袋町小学校平和資料館、レストハウスほか1か所 ・ 参加人数：17人 イ 令和4年11月13日開催 ・ コース：広島大学医学部医学資料館、旧広島陸軍被服支廠ほか1か所 ・ 参加人数：12人 ウ 令和4年11月26日開催 ・ コース：東照宮、広島逡信病院旧外来棟ほか1か所 ・ 参加人数：17人 〔被爆樹木めぐり〕 令和4年11月3日開催 ・ コース：平和記念公園、ハノーバー庭園ほか4か所 ・ 参加人数：12人</p> <p>(4) 旧中島地区被爆遺構の維持管理(5,244千円) 遺構のモニタリング及び建屋(保存・展示施設)の維持管理を行った。</p> <p>(5) 旧中島地区被爆遺構の整備(3,829千円) 被爆遺構展示館の園路整備に係る実施設計業務を行った。</p> <p>(6) 広島逡信病院旧外来棟屋上防水その他補修(12,676千円) 広島逡信病院旧外来棟の屋上防水工事を行った。</p> <p>(7) 原爆被災説明板等補修その他(2,926千円) 「平和の門」の照明機器の取替え等を行った。</p>

項 目	説 明
	<p>2 旧日本銀行広島支店建物復原工事【市民局】(102,300千円) 被爆後復旧工事直後の状態への復原改修工事を進めた。</p> <p>3 平和記念資料館収蔵資料の保存措置の強化【市民局】(18,333千円) 平和記念資料館本館の展示資料の入替えを実施したほか、所蔵フィルムの高精細デジタル化を始めとする保存措置を講じた。また、被爆者証言ビデオのテキストデータ化や多言語化を進め、順次ホームページでの公開やYouTubeでの配信を行った。</p> <p>4 被爆資料の収集等の強化【市民局】(3,222千円) 被爆者やその遺族を訪問し、資料の寄贈を受けるとともに、国内外から受領・収集した資料等について、資料の精査及び調査・分析を行った。</p> <p>5 平和記念資料館の発信力の強化【市民局】(5,147千円) 国外に向けて被爆の実相を伝えるため、平和記念資料館のホームページの多言語化(フランス語、ドイツ語及びイタリア語)を進めた。</p> <p>6 青少年を中心とする平和文化イベントの開催【市民局】(869千円) 被爆の記憶の風化を防ぐとともに、世界恒久平和の実現を願うヒロシマの心を訴えるため、青少年による平和に関するメッセージを中心とした平和文化イベントを開催した。 ・ 期 日：令和4年8月6日 ・ 場 所：広島国際会議場</p> <p>7 平和学習講座【市民局】(331千円) 講師を広島市内外の小・中・高等学校等に派遣し、平和学習を実施するとともに、ウェブ会議システムを利用した講座を実施した。 ・ 実施回数：88回</p> <p>8 ユースピースボランティア事業【市民局】(417千円) 平和記念公園を訪れる外国人に対して被爆の実相を英語で伝えるボランティアガイドを育成し、その活動を支援した。 ・ ボランティア登録者数：49人</p> <p>9 広島平和文化センター事業助成【市民局】(319,102千円) 公益財団法人広島平和文化センターが実施するヒロシマピースボランティアなどの事業や法人の運営に必要な人件費等への助成を行った。</p> <p>10 平和記念資料館ボランティアスタッフ活動支援事業【市民局】(1,723千円) 平和記念資料館の各種事業に携わるボランティアスタッフ等の資質の向上を図るための研修を実施した。 ・ 実施内容：総合研修(5回)、英語研修(160回)、パソコン研修(2回) ・ 参加人数：延べ703人</p>

項 目	説 明
	<p>11 海外へのオンライン被爆体験証言【市民局】(423千円) ウェブ会議システムによる被爆体験証言を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施回数：5か国9都市・15回 ・ 聴講者数：538人 </p> <p>12 修学旅行生への被爆体験講話等【市民局】(9,107千円) 被爆体験証言者による被爆体験講話や原爆記録ビデオ等の上映を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施件数：1,464件 ・ 参加人数：11万13人 </p> <p>13 被爆体験伝承者による伝承講話の実施【市民局】(4,403千円) 平和記念資料館において伝承講話を定時開催したほか、市内会場への派遣及びウェブ会議システムを利用した伝承講話を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施件数：1,067件 ・ 参加人数：3万3,831人 </p> <p>14 被爆体験伝承者等の養成【市民局】(1,624千円) 被爆体験伝承者としての活動を希望する者(研修生)に対し、進捗状況に応じた研修を実施するなど被爆体験伝承者の養成に取り組むとともに、新たな被爆体験の掘り起こしのため、家族伝承者の養成にも取り組んだ。令和4年度は、被爆体験伝承者47人、家族伝承者7人が研修を修了した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 研 修 生：被爆体験伝承者209人(令和4年度応募者：48人) 家 族 伝 承 者 44人(令和4年度応募者：54人) ・ 研修期間：2年 </p> <p>15 原爆ドーム保存事業等基金への積立て【市民局】(242,266千円) 原爆ドームの保存事業のほか被爆の実相を「守り、広め、伝える」事業の財源とするため、原爆ドーム保存事業寄附金、平和国際交流費寄附金、「ヒロシマから世界へ」ふるさと納税寄附金、平和記念資料館観覧料改定に係る増収相当額等を基金に積み立てた。</p> <p>16 「ヒロシマから世界へ」ふるさと納税の推進【市民局】(86千円) 平和の推進を目的として寄附した方に対し「被爆体験証言を収録したDVD」、「カーブ坊やをデザインした折り鶴再生製品」などを贈呈品とするふるさと納税を推進した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 申出件数：15件 </p>

項 目	説 明
	<p>17 平和記念式典の開催【市民局・健康福祉局】(103,042千円) 新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を講じながら、令和3年よりも規模を拡大して開催し、被爆者・被爆者遺族席数を増やすとともに、一般席、自治体席、外国人席を設け、参列希望者の事前募集を行った。 また、式典の挙行に適した環境の確保について実効性のある対策の検討を行うに当たり、参列者向けのアンケート調査及び拡声機の音量測定を実施し、その結果を踏まえ、デモ行進の実施団体との協議を通じて、令和5年の式典の挙行に適した環境の確保に向けた合意とその遵守を担保する方策を検討した。 ・ 参列者数：2,854人</p> <p>18 原爆被爆者動態調査【健康福祉局】(2,695千円) 原爆による人的被害の実態及び被爆者世帯の被害状況を明らかにするために、本市が保有する被爆者情報に、新たに判明した原爆死没者や被爆者健康手帳交付者情報などを整理・統合化した。</p> <p>19 史跡原爆ドームの保存・継承【市民局】(3,491千円) 特別史跡の指定に向けて総括報告書の作成を進めた。</p> <p>20 原爆ドームの保存整備【都市整備局】(12,540千円) 健全度調査において、ドローン等が従来の足場設置に代替可能かどうかを比較検討するため、原爆ドームの形状や色彩などに関する高精度の3Dデータを、ドローン等を用いて取得し整理した。</p> <p>21 本川小学校の平和資料館運営【教育委員会】(3,184千円) 運営管理人を資料館に配置し、被爆した校舎や遺物等、展示資料の管理や来館者対応等を行うことにより、被爆体験を継承する施設としての充実を図った。 ・ 年間来館者数：2万623人</p> <p>22 袋町小学校の平和資料館運営【教育委員会】(3,086千円) 運営管理人を資料館に配置し、被爆した校舎や遺物等、展示資料の管理や来館者対応等を行うことにより、被爆体験を継承する施設としての充実を図った。 ・ 年間来館者数：2万3,007人</p> <p>23 比治山公園「平和の丘」に係る取組の推進【企画総務局・市民局】(473,600千円) エントランス広場等の整備や案内サインの改修を行った。また、現代美術館の改修・増築工事を完了するとともに、公園の管理運営手法等の検討を行った。</p> <p>24 国際平和拠点ひろしま構想推進連携事業【市民局】(407千円) 広島復興プロセスに関する教材を印刷・配布し、県・市が主催する研修・講座等で活用した。</p>

項 目	説 明
	<p>25 平和記念資料館管理運営【市民局】(389,387千円)</p> <p>平和記念資料館の施設の管理運営に加え、被爆の実相・平和に関する資料の収集、保管、展示及び供用、平和学習や被爆体験の継承等平和を考える場の提供等を行った。</p> <p>このほか、被爆の実相をより深く理解してもらうために、原爆被災に関する調査・研究やそれに基づく企画展を開催するとともに、核兵器廃絶と世界恒久平和を願う心をより多くの来広者に届けるため、バスガイド等観光事業従事者のための研修会を開催した。</p> <p>〔入館者数〕 112万6,381人</p> <p>〔ホール利用件数〕 467件</p> <p>〔企画展〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「爆心直下の町ー細工町・猿楽町」 期 間：令和4年9月16日～令和5年3月21日 ・ 「広島戦災児育成所ー子どもたちと山下義信」 期 間：令和5年3月24日～令和5年9月11日